

く、食草を捜すのに四苦八苦した覚えがあります。本種は食草の関係上とても少ない種であります。本年は偶然にもヒメカンアオイの少々群生している所を発見しましたので、まずまずの成果を上げることができました。一般には、城山公園周辺で採集されます。また城山山頂にもしばしば飛来していますが、個体はすべて♂です。食草の関係上、多いとは言えませんが未発見の場所をみつければ、多く採集できる可能性があります。

採集例、城山山頂	2♂	4月9日
中才	1♂	4月13日
野尻	5♂	4月18日
別当	1♂ 1♀	4月20日
城山公園	2♀	4月24日

ヒメヒカゲ (*Coenonympha oedippus* FABRICIUS)

〈食餌植物〉カヤツリグサ科、イネ科

志方町では6月上旬から7月中頃にかけてが比較的
に多い種です。どこにでもいるわけではありませんが
やや湿った草地に多いようです。城山周辺、野尻、七
ツ池、成井など、また池の土手にも多いようです。ヒ
メヒカゲばかりを狙うと、一日に20~30頭は採集でき
そうです。

採集例、城山山頂	1♂	6月10日
中才	1♂ 2♀	6月19日
野尻	2♀	6月21日
七ツ池	3♂ 4♀	7月4日
成井	4♂ 12♀	7月9日

(3)、まとめ

少ないですが上記3種の蝶を例として取り上げまし
た。この数ヶ月間、志方町を時間の許す限り歩き回り
ましたが、昨年採集した所に蝶がいなかったという場合
が数多くありました。志方町にも開発のきざしがあら
われ、こんな場所にも蝶がいるのかといったこともあ
りました。私は、来年もまた志方町を歩き回り、今回
発表できなかった蝶を一種類でも多く見つけていきたく
と思います。

尚本稿を草するにあたり御協力と御助言を下された

加古川の山本俊良、住谷健、近藤伸一の諸氏に深くお
礼申し上げます。

(S.77: Akira Takashima 高砂市)

昆虫館だより ⑦

千種川グリーンライン昆虫館

館長 内海功一

西播磨産の植物で有名なものにコヤスノキや
チトセカズラがある。いずれも夢前川から西方
に、コヤスノキは岡山県の一部に、チトセカズ
ラは、さらに西の広島県、そして、山口県では
稀産という分布域のものである。

このようなものと昆虫の関係はと思いを付
けていたところ、'80年秋、佐用郡南光町船越
でチトセカズラの葉を巻いたメイガの1種を見
出し、飼育を試みたが失敗、'81年秋再度行い
越冬幼虫を数頭羽化させることができた。

この蛾は、開張約20mm、翅の先端に黒紋があ
り、はっきりした特徴があった。しかし、不詳
なため奥谷先生の教示を得て京都府立大学吉安
裕先生に'82年3月同定をお願いした。その結
果、*Heterocnephes apicipicto* Inoue 1963

(クロモンハイイロノメイガ)とわかり、食草
はまだ判明していないとのことであった。

その後、'83年9月『日本蛾類大図鑑』(講
談社)が出版された。それによると、この蛾は、
房総半島以西の本州、四国、九州、対馬、屋久
島に分布、5~6月、8~9月と2回出現、と
あり、食草の記載はやはり無い。

ところで、他地域での食草は一体何であろう
か…。これは一例だが、稀産種や特産種に近い
植物のかなりある西播磨の自然環境は、これら
にまつわる昆虫研究の面でも課題を含む所でも
あるようだ。

(S.08: Kōichi Utsumi 佐用郡南光町船越)